

日本糖尿病学会中国四国地方会 第56回総会

糖尿病劇場[®]



平成30年

10月26日 **金**

18:25 ~ 19:15

海峡メッセ下関

E 会場



もう一人の自分

間食

糖尿病劇場[®]は、ありふれた日常場面を切り出し提示します。医療者の行動・言動、患者の何気ないつぶやき・しぐさに注目してみることで新たな発見ができるかもしれません。

座長 黒田 暁生

演者 手納 信一

佐藤 悦子

劇団・縁（えにし）

徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター

島根県糖尿病療養指導士認定機構 研修委員長

雲南市立病院 検査技術科

島根県LCDEチーム

劇場を通して皆さんと一緒に考えたいこと

間食などの嗜好品、好ましくない生活習慣・・・いけないと自覚していても、どうしても止められない、止めようとすればするほど止められない患者の行動のしくみ、心理的な葛藤を医療者はどのように考えていけばいいのでしょうか・・・。

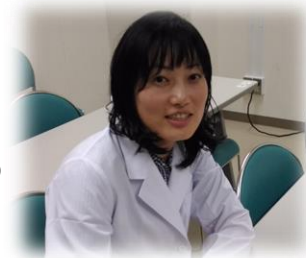
なぜ、患者さんは止められないのか？そのような患者さんの心のありようは・・・。

～ 登場人物 & あらすじ ～

萩みかんは、山口さんの栄養指導を担当。過去の聞き取りで三度の食事に問題はなく、主治医から間食をやめるよう指示があります。今回の栄養指導でも間食がどうにかならないか説得しようとしています・・・。

萩 みかん・・・熊谷尚子(出雲市役所)

3年目の管理栄養士。間食は食品交換表になく、主治医からの指示もあり摂ってはいけないと認識。間食を止められない患者の指導に悩むことも多い。



宇部 ふく子・・・福間麻子(島根大学医学部附属病院 検査部)

CDE10年目の看護師。嗜好品が止められない患者との関わりも多い。自身も間食をコントロールできずストレスを感じることもある。

岩国 長人・・・渡部晃央(雲南市立病院 薬剤部)

5年目の薬剤師。糖尿病患者との関わりは少ないが服薬指導経験あり。論理的思考の持ち主で自分にも他人にも厳しいところがある。



山口 子朗・・・本田正宏(雲南市立病院 薬剤部)

45歳、通信関連会社の営業職。糖尿病治療歴15年で、SU剤を使用。BMI 23、喫煙習慣あり。父は糖尿病、心筋梗塞で他界。糖尿病の知識はもっており合併症を気にするが、間食を止めることができずHbA1c高値が持続。営業で、昼間は得意先に出かける。日頃、上司からの暴言、残業、周囲のリストラなどストレス過多。家族(妻、高校3年生娘、中学2年息子)と同居。受験を控えた娘、思春期の息子のことで悩みあり。

